

ストレングス

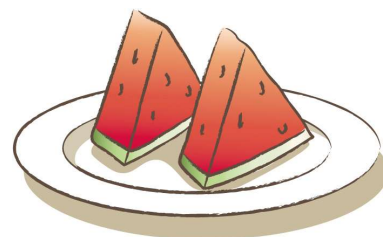
小野みどり

Tさんの両足は、ひどくむくんでいた。ふくらはぎから足首、足の甲にかけて、パンパンだった。足のむくみは、高齢の方によく見かける。原因は様々でわからないことも多いが、Tさんの場合は、心不全から来ている。それも、家族が葬儀社に連絡を入れたというほどの重症だった。入院中、幻覚妄想から不穏状態になり、退院を促された。「どうなってもええから」と家に戻ったと聞く。

それから、1年近くになる。すっかりむくみはとれて、車椅子を操って家の中を動いている。先日、奥さんから「先生が、良うなっとなるから薬を減らすゆうてくれた」と報告があった。90代半ばのTさんがここまで回復するとは思ってもみなかったので、本当に嬉しい。

ストレングスという言葉がある。その方が持っている「強み」のことである。今回のTさんの好転は、まさに、Tさんのストレングスによるものと考えられる。私なりにTさんのストレングスについて書いてみる。

真っ先に、おおらかな奥さんの存在が浮かんでくる。退院は、暑さの残る九月だった。「本人が食べたいものを食べたらええ」とスイカを買ってきた。パクパクと食べた結果、スイカのカリウムが、体内の塩分を排出した。期せずして毒消しになったらしい。(誰にでも通用する話ではないので注意が必要)。みるみるうちに、自分でトイレに行けるようになった。ちなみに、Tさんの好物は芋粥だとか。



次に、ご夫婦とも、提案した様々なサービスを快く受け入れてくれている。薬をきちんと服用することが、とても大事なTさん。朝だけの一包化にして薬剤師に管理してもらうことにした。往診の医師、訪問看護師、ヘルパー、デイサービス、理髪師まで、訪問した事業者は、お薬カレンダーの飲み忘れに気づくと、次の事業者につないでいる。それぞれの役割を果たしながら、多職種連携ができているのかな、と思う。

特筆すべきは、週に4回もの足浴を喜んでくれていることである。訪問看護師1回とヘルパー3回の計4回。足浴に特化した思い切った身体介護である。冷え性のTさんの血行を改善して、心臓の働きを助けている。

最後に、気持ちの切り替えが上手なことも忘れてはいけない。週に1回、入浴やレクリエーションを楽しみにデイサービスに出かける。前日から自分で支度をする。被っている烏打帽が、ダンディ。

医師によると、Tさんの場合、体重が病状のバロメーターだという。

足のむくみが取れてからは、50キロを超していない。

ご家族とスタッフに感謝しながら、今の生活が続くことを願っている。

